

「畑のお悩み」解決

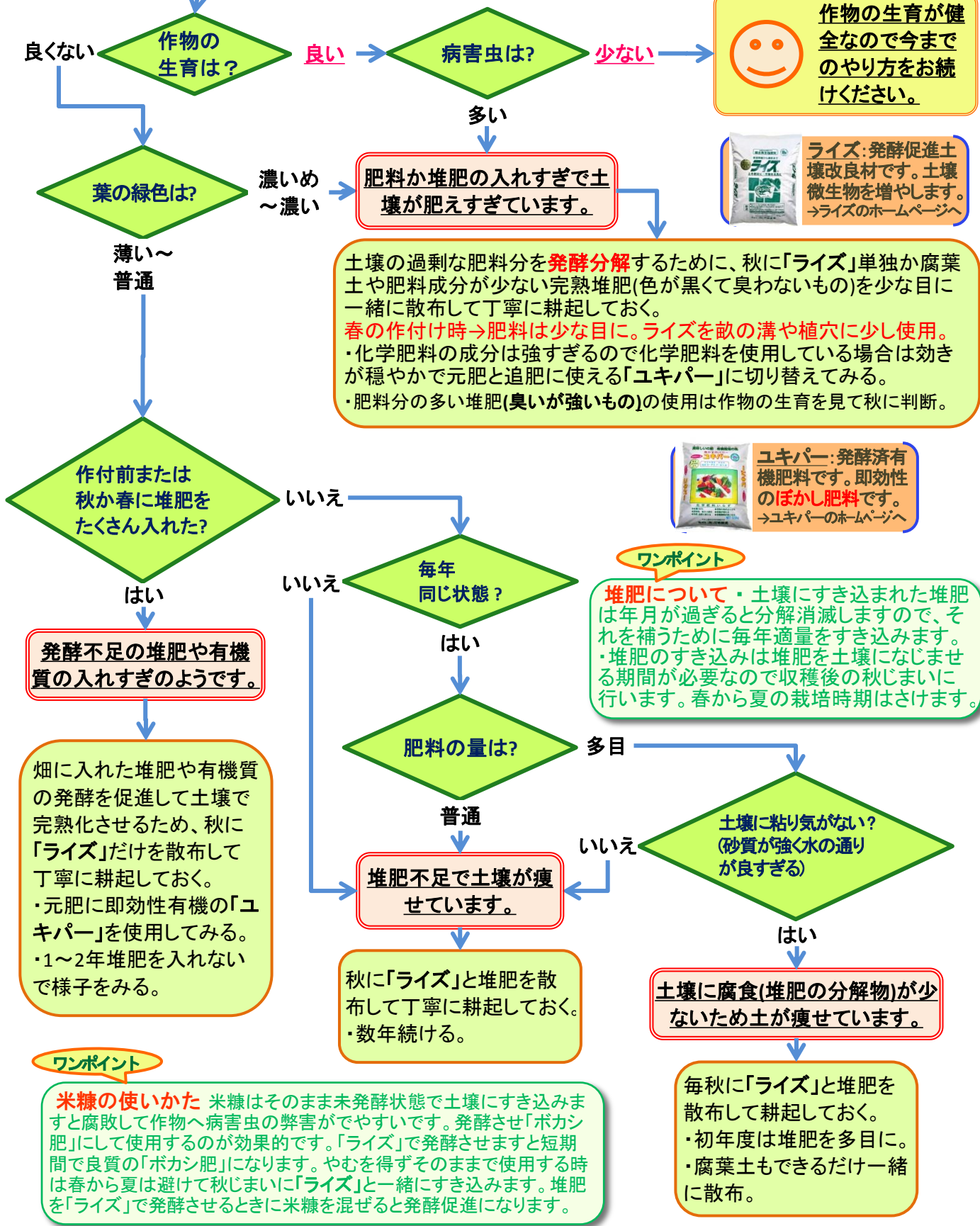
【土づくりフローチャート】

『作物の生育が悪い・病害虫が発生する・堆肥を使う時期がわからない・土づくりって?』を解決するためのヒントです。

毎年の**施肥**や**土壌管理**が土づくりの理にかなっていない、作物の生育が良く、病害虫が少なく、特別なことをしなくてよい場合もあります。
 (判断は標準的なものですので適合しないこともあります)

有機農業ワールド ライズ・ユキパー製造元 (有)花巻酵素

土づくりとは：堆肥を上手にすき込む等して土壌を管理・手入れをすることで土壌には養分が適度に含まれて多くの有効微生物が繁殖し作物の根張りが旺盛になります。その結果、作物に病気や害虫の発生が少なく、健全に生育し、毎年安定して収穫できるようになります。収穫された作物は美味しく栄養価の高いものとなります。



作物の生育が健全なので今までやり方をお続けください。

ライズ：発酵促進土壌改良材です。土壌微生物を増やします。
 →ライズのホームページへ

土壌の過剰な肥料分を**発酵分解**するために、秋に「ライズ」単独か腐葉土や肥料成分が少ない完熟堆肥(色が黒くて臭わないもの)を少な目と一緒に散布して丁寧に耕起しておく。
 春の作付け時→肥料は少な目に。ライズを畝の溝や植穴に少し使用。
 ・化学肥料の成分は強すぎるので化学肥料を使用している場合は効きが穏やかで元肥と追肥に使える「ユキパー」に切り替えてみる。
 ・肥料分の多い堆肥(臭いが強いもの)の使用は作物の生育を見て秋に判断。

ユキパー：発酵済有機肥料です。即効性のぼかし肥料です。
 →ユキパーのホームページへ

ワンポイント
堆肥について・土壌にすき込まれた堆肥は年月が過ぎると分解消滅しますので、それを補うために毎年適量をすき込みます。
 ・堆肥のすき込みは堆肥を土壌になじませる期間が必要なので収穫後の秋じまいに行います。春から夏の栽培時期はさけます。

発酵不足の堆肥や有機質の入れすぎのようです。

畑に入れた堆肥や有機質の発酵を促進して土壌で完熟化させるため、秋に「ライズ」だけを散布して丁寧に耕起しておく。
 ・元肥に即効性有機の「ユキパー」を使用してみる。
 ・1〜2年堆肥を入れないで様子を見る。

ワンポイント
米糠の使いかた 米糠はそのまま未発酵状態で土壌にすき込みますと腐敗して作物へ病害虫の弊害がでやすいです。発酵させ「ボカシ肥」にして使用するのが効果的です。「ライズ」で発酵させますと短時間で良質の「ボカシ肥」になります。やむを得ずそのまま使用する時は春から夏は避けて秋じまいに「ライズ」と一緒にすき込みます。堆肥を「ライズ」で発酵させるときに米糠を混ぜると発酵促進になります。

土壌に腐食(堆肥の分解物)が少ないため土が痩せています。

毎秋に「ライズ」と堆肥を散布して耕起しておく。
 ・初年度は堆肥を多目に。
 ・腐葉土もできるだけ一緒に散布。

堆肥不足で土壌が痩せています。

秋に「ライズ」と堆肥を散布して丁寧に耕起しておく。
 ・数年続ける。